

## 町政座談会（口羽地区）

日 時 令和6年1月29日（水）  
18:30～20:00  
場 所 口羽公民館

### 1. 町長あいさつ

皆さん、こんばんは。町長の大屋光宏です。町政座談会を開催しましたところ、こうやって、本当に寒い時期、暗い時間帯にお出かけいただきまして、大変ありがとうございます。町長にならせていただいて、まずは皆さんの声を聞かせていただく場面をしっかりつくっていきたいですということで、町政座談会を計画しました。ただ、本当に申し訳ないんですが、時期がこういう寒い時期になったということと、町の立場からも、今、予算の査定中なので、来年しますと言えるわけでもないし、皆さんからお話を受けて、じゃあ実行しますというわけにもいかないという非常に難しい時期になりましたが、こうやってたくさん来ていただきまして、大変ありがとうございます。

町長になって、2ヶ月、3ヶ月経つ中で、実は公務という形で羽須美に来ることはほとんどないです。本当なら、石見に役場があって、瑞穂支所があって、羽須美支所があるので、定期的に訪れているいろいろ話を聞かせていただいたり、行き来する中で、この地域の雰囲気を感じなければいけないんですが、羽須美支所に来させていただいたのは、年明けの仕事始めが初めてでした。

町長になって思うのは、自分で何かできるわけじゃない。行きたいと言っただけではいいわけですが、予定が詰まっていてできない。行き来も車に乗せていただけなので、自分で運転するのと違って景色を見ながら考えながら感じながらでもない。それで、いろいろな場で話をしたり、いろいろなことをしますが、ほぼ蓄えた知識を消耗するだけであって、新しいことを感じたり、思ったりする場面が非常に少なく。私にとっても町政座談会を、こういう形で開催させていただいて、この後、できれば1時間くらい意見交換をしたいと思います。いろいろな思いを伝えていただく場面は非常にありがたいと思っております。

今日、臨時議会を開いたわけですが、議員の方からいろいろ質問を受けながら、今までは議員で、この度、町長にならせていただいて思ったのは、議員の方はやっぱりすごい。議会に出ておられているところは、そこだけでも役割かもしれないけど、それまでのところで日常生活があって、皆さんの声を聞いて、いろいろな思いをもって、皆さんの代表として質問をしていただいています。実は今日、十分答えられたかということ、今日、中村議員さんが来られておるんですが、道の駅みずほの造成工事の工期の延長をお願いしました。建物全体がどうなるのか、予算がどうなるのか、資料を後から出してくださいと言われてました。本当なら、全然わからんし、コロコロ変わってくるし把握できんのだけど、資料を出してもらわんとわからんわと言われてたら、どうしようかと思いました。

平野議員さんも、いつ本体ができるの？開業がいつなの？と聞かれました。質問としたら、造成工事の工期の延長なので直接関係はないのでと議長が判断されたんですが、造成工事の工期が延びたら、建物にどういう影響があるのか、全体の話をしてくれないと判断がつかないと言われてたらおしまいだと思ったんですけど、そこ

は後でと優しく言っていただいたんです。

非常に足りない部分がある中で、やはり町長はどちらかと言うと、視野が狭くなる一方です。いろいろな思いが消耗していくばかりで、本当に町民の皆さんに寄り添えているかという、微妙なところがあるのが事実だと思います。それを補うのが、議員の方なので、やはり議会の委員さんがしっかりしてくると、それは町民の皆さんのためであり、町のためであり、そういう意味で町と議会が両輪であって、切磋琢磨してというところは、そこなんだなと思いました。

議員の方にチェックしていただく役割というのは、益々これからも高くなるし、そこが一番大事になるので。今、対年度予算の査定をさせてもらっています。財政が厳しい中で、どうするかと思ったときに、議員をしていたから分かるというか。いろいろな課の仕事を見てきたので。

例えば、出された課がこれが一番いいと思っているこの仕事を違う課がやった方が効率的じゃない？とか、そういうのもあるんだと思います。それは、幅広く見てきた経験かなと思いますが、一方で予算チェックという、議員さんの強みは予算書を全部くまなく見るから、もっとこうできると、広く視野が持てるというところなんだと思います。そういう意味で、ますますこれから厳しい中で議会とのやりとりの中で、しっかりと議員の方は皆さんの代表であってというのを尊重しながらお互いに、いい町づくりができればと思っています。

12月議会が過ぎまして、今、ケーブルテレビでもやっています。以外と堂々と答えさせていただいた時と、これは困ったなという質問があります。町政座談会を進めていく中でも同じなんです、財政が厳しいです。再建しますという話をします。今回も、今後取り組んでいきたいことという話をしようと思うんですが、財政がどれだけ厳しいのか、このままだとどうなるのかという数字は出していないです。何となく雰囲気、皆さんにご理解いただいているかなと思います。大型投資も続くし、人口も減ってくれば、それは大変だなと。ただ具体的に何が大変で、どうするつもりなの？と言われると、確かにわかりやすい説明は難しいなと思っています。決して、町が潰れるわけではないです。何かしなかったらどうなるのかと言われても、何とかなる気が皆さんしているし、職員もそうだと思います。

本当にどうなるのかと言うと、皆さんにいろいろお願いしていることをもっとお願いしなければいけなくなる。例えば、財政が厳しくなるので、水道代が上がりますと言うと理解していただけますか？資材費が高くなったり、人件費は町なので。原料費が高くなった、維持費が高くなった、物価高なのでその分だけお願いしますなら、理解していただけるんだと思います。お金がないので、値上げしますって何か変ですよ。そこが分かりにくさかなと思っています。水道で言うと、皆さんからいただいている水道代は企業であれば、当然、利益が出るお金、かかった経費プラス利益分をもらうのが本来ですが、町はかかった経費の半分程度しかいただけていないです。その差額は町が負担しています。そうすると、その差額分を町が負担できなくなれば、かかる経費に近い分だけくださるので、上がります。やはり財政が厳しくなると、必然的に上がる仕組みです。今までの住民サービスが、お金をもらわなければできなくなる。例えば、こういう施設を使うのに、地域の方はほぼ無料だと思います。当たり前になっていますが、電気代は常に上がります。じゃあ、今まで無料だったものを同じように使っていただくためには、どうするのか、誰が負担をするのかという話です。

極力、そういうサービスを下げたくなければ、やり繰りするしかないです。皆さ

んのお家と一緒にです。入るものは決まっている中で、出るものが増えれば、やり繰りされるんだと思います。今、財政の予算の査定をして思ったのは、町は今までそういう経験が少なくてやり繰りをする。町の中も誰かがやってくれていた仕事です。職員の中でやり繰りをしてというのは難しいですし、今までしていたことを止めますという判断もつかない。これは町長の責任として、職員の方は必要だと思っていることであっても、これは今はやめましょうとか、変えましょうというのをしっかり伝えながら、やり繰りをしていかなければいけない。その経験の積み重ねでやり繰りしながら何とかするから、サービスが続けられるのかなと思っています。

今、きちんとしなければ、そのやり繰りが続かない。先々で大型投資の借金の返済も始まる。今、どこの自治体も悩ましい話で、今日も福井県議に来ていただいて、県の状況を話していただきました。事業をされている方には、直接、関わる話かもしれませんが、公共事業で、人件費は上がる。資材費も上がる。2割、3割が上がっているということは、予算を2割、3割増やさないと、企業の利益もできる仕事量も一緒にならない時代になってきている。県はそこを応援するために積極的に予算を上げます、その姿勢ですと言われました。ものすごくいいことなのですが、当然、ものによっては町の負担が半分であるとか、10分の1とかつきます。町負担も増えるわけです。そうすると、せっかくならばつけていただいた予算をしっかりと使おうと思うと、それに町もついて行かないといけないということは、もっとやり繰りをして財源を捻出して、町負担を満たさないと、皆さんのためにならない。非常に課題が多くなっています。

地域的にも町全体がそうですが、人口が減るのは皆さん分かっています。ただ世帯数はあまり減っていないで、若い人が家を建てていただくのはありがたいですが、一人暮らしの方も増えてくる中で、住民サービスを一軒で2人、3人おられた時代から、一軒、一軒をまわらないと、住民サービスに負担も増えてきて、じゃあどうするんですかということです。本当に職員の方も含めて工夫して努力して、その積み重ねがないと続かない状況です。それは私たちの責任としてしっかり取り組まなきゃいけないと思っています。

1月の仕事始めで初めてここに来させていただいて、町全体もそうですが、職員の方にお話をしたのは、町として行政として、1、2、3月は今年度事業の仕上げです。今年度のことをしっかりしましょう。そして、来年度予算も、併せて大変だけどしっかり組んで、4月になったら、これをしますといったことを議会に認めていただいたことをすぐできるようにしましょうということを言いました。本当に大変だけど、この1、2、3月は頑張らないといけない。それが先々で、皆さんのためになるというところを理解しながら、進めていければと思っています。

財政の話は少ししましたが、細かいところに入る前に、もう少し話をさせていたくと。地域経済の応援というのは大きなことだと思っています。町内消費を増やす、羽須美は地元のお店や企業が少なくなっていますが、邑南町全体でいえば、ドラックストアのような町外の資本が入ってきていないはず。それぞれ地元の方が頑張っているということは、その地元の企業を何とか応援して支えながら、経済対策をしてもそれが極端ですが、お金を配れば、そのお金をどこでも使えるお金なんです。商工会の商品券とかおおなんさくらカードを活用すれば、町内で使っただけ。少しでもそういう道筋をつけるべきだと思いますし、12月に商工会の方が来られて、いろいろ話をしたときに、贈答品のカタログをつくられた。職員の方に配ったら、いろいろな業者さんが来て昼休みに宣伝して歩かれているなら、許

可をもらって同じ感覚でいいんじゃないですかという話をしました。やはり、職員の方にもしっかりアピールしていただいて、町内でというのを皆でしていければと思っています。具体的にということもありますが、人がすごく少なく、人を育てるにも資格を持っている人に来てもらえればいいけれど、そうでない時代であれば、まず雇ってからその人を育てる、バックアップをしていかなきゃいけないと思いますし、地域に人がいないということで、少し書いていますが。

今まで矢上高校に、とにかく来てくださいというところから始まりましたが、来ていただいた人がどれだけ地域に残っていただいているか、地元のお子さんもそうです。やはり矢上高校に来てくださいということにすごくお金をかけてきたので、今度はその生徒さんたちがこの地域で、支えてもらえる人材になるように応援していかなきゃいけないと思っています。

これは相談です。皆さんも一緒に考えていただきたいんですが、大学に行くのがいいとか専門学校に行くのがいいとか、親も送り出さなきゃと思いますが、非常に負担も大きい時代になったんです。そう思えば、この町に残って、この町で仕事をしながら生活をして、生涯が送れるような仕組みを。町としても、資格を取ったり、学びたいという応援をしながら、この町のために生活する、暮らしていくという仕組みがあってもいいのに。それが全てとは言わないけど、そういうものを町としても示さないといけない。今、どこの企業も求人です。うちに来れば、こういう人生が送れますというのを示しています。資格をとって、この年代であれば、こういう役について。町としても、この町で暮らせばどういう人生を送れるかという提案をしてもいいと思っています。全てが大学を出て、専門学校を出てというわけでもなくていいんだと思います。そういう人生があってもいい。それをしっかり支える町であっていいんじゃないか。それが人手不足の解消につながってもいいんじゃないかと思っています。

今日、矢上高校に行ってお話をする機会がありました。支えます、この町にまた帰ってきてくださいとは言いますが、一方で私たちは、若い皆さん期待しています。ぜひ帰ってくださいと、いっぱいお願いするのはプレッシャーなのかな、喜びなのかなという疑問もあります。やはり喜びをもって、この町にと思ってもらえるように、また皆さんと相談しながら、どういう手法がいいのかというのを考えて進めることができればいなと思っています。

それから大きなもう一点が、農業や農地や山の話です。道の駅の産直市が新しくなります。町内には、羽須美はすみません、距離的にいろいろあるかもしれませんが、瑞穂の産直市があって石見には雲井の里があって、261号線上には川本があって、それぞれのお店の中でも野菜を直接出せるところがあります。そういう条件がいい上に、米の値段が高く、野菜の値段も高い。そうすれば、もう少し今年の作付は米を増やしてみようとか、野菜をちょっとつくって売ってみたいとか。売る場所があるので、手芸品をつくってみるとか、山にある何かで特技を生かしてとか。そういう話が出てくると、一番ありがたいですが、そういう雰囲気ではない。どちらかというと、農地を続けることは難しいとか、中山間の面積を減らしたい、辞めたいという話になっています。

農業でも林業でも第一産業の全てとは言わないですが、非常にいい時代でチャンスが来たと思っています。なかなかものがつくりにくくて、単価はいいけど売り上げが伸びたわけじゃないという方も多いですが、でも頑張ればいいチャンスかなと思っています。そこが意欲に結びつかないということは行政として町として少し後

押しを、何らかのことをしていかななくてはいけないんだろうなと。引っ張るとかじゃなくて、背中を少し押す感じでやってみようかなと。

具体的には、勝手に思っているだけですが、今までは皆さんが種を撒いてつくっておられたけど、そこからという大変な時代になってきたなら、野菜の苗を配って、つくってくださいくらいはしてもいいかなと。そういうのがあれば、やってみようかなと。スタートを変えてみるのも手かもしれませんし、米にしても面積ができないんだったら、収量が上がる品種に変えてもらうことを後押しするとか。来年度予算ですぐは、時期的に難しいのかもしれませんが、そういう工夫をしないと難しくなってきたのかなと思います。

最後の方に書いたんですが、その他で、職員の副業と書きました。役場職員、公務員が副業をしてはいけないと思っていましたが、12月の一般質問もあって、課長の皆さんと話をしたら、制度に基づいて許可を得ればできます。そこまでいなくても、地域のことに参加するのは自由なんだと思います。もう少し職員の方に地域課題を見て参加していただきたい。それは個々の能力アップですし、役場の中の他の課の仕事にも興味を持てるかだと思います。農業も許可を受ければやってもいい範疇だと思います。野菜をつくって朝収穫して出荷して、家族に頼んで出勤して。今は無理ですが、日が長くなればできない話ではないです。儲ける稼ぐというのもありますし、地域で直売所にものがないなら、そういうことも考えられるかなと思っています。

具体的なことを書きながら大きな話をしました。ここにあることで、抜けていることではないんですが、また見ていただいて気になれば質問していただければいいんですが。大きな課題になるのは今後、小中学校の統廃合、併せていろいろな施設の統廃合だと思います。町内で持っている施設の全てを維持管理がきちんとされて、大規模修繕が終わっていて、すぐに建て替えなくていい状況なら、あまり考えなくてもいいんですが、そういう状況でないのが事実です。

併せて、人が減る中で、人口も具体的な話を書けばいいんですが、書くと結論が決まって、この先マイナスの思いになるので書いていませんが、お子さんの数でいうと、小学校だけでいうと、町内全域で一学年70人が目安です。その下の0歳から6歳の保育所の人数になると、300人になります。1学年50人です。全員がまだ保育所に行っていないかもしれませんが、そういう雰囲気です。ここ数年、去年、今年がどうかと思います。生まれるお子さんは40人を超えるか超えないかです。この話を先にして、その統廃合の話をしたら、町内に一つでいいじゃないかという話になってしまうので。

今なら、具体的に言うと教育委員会には、教育として邑南町らしい学びとして小中学校がどうあるべきか。併せて、皆さんにコミュニティや地域のことに関わっている地域みらい課には、町として地域として学校がどうあるべきか、全く違う立場で考えてくださいと言っています。将来的に、今、生まれるお子さんが40人くらいなら、そのまま上がってくればそうかとなるけれども、それじゃあ教育や地域の在り方が難しい。もっとこのくらいがいるといいよねという人数もあるのかもしれませんが。そうすると足りない数合わせで。すみません、お子さんの数が足りないと言っては申し訳ないんですが、理想的にはもう少しおられるといいなと思えば、1ターンやUターンを求めていかないといけない。そこは行政の仕事なんだと思います。そういう目標を定めながらやっていければと思っています。

具体的に今、この地域の学校をどうします、どこがどうですという思いではない

です。ただ現実の中で考えていかなきゃいけない時期が来ましたし、この問題を先延ばしにしていくというのは、ますます最後の結論が小学校1校、中学校1校でいいですとなってしまうので。やはり今なら選択肢がたくさんあって、今、考えれば、そして統廃合は、5年後とか数年後というようなやり方ができるんじゃないかなと。学校の修繕が必要になっても時間がかかるのでと思っています。それぞれの地域にとっては、非常に重要な問題であります。だからこそ、きちんと早めに議論して将来のために備えていければと思っています。

その他については、いろいろな課題がある中で、今の思いの中で読んでいただければ雰囲気はわかるかなと。ちょっと説明する時間がないので、逆に質問とかご意見をいただきながら、説明したり意見交換ができればと思っています。まずは、私の冒頭のあいさつということにさせていただいて、教育長から少し説明がありまして、意見交換をしたいと思います。

意見交換でできれば、どこの会場もそうですが、比較的活発にさせていただいています。ただ、最初に誰が手を挙げるか様子を見られますので、だれか最初にぱっとやっていただけると助かりますし、本当ならこちらから投げかける中で答えてもらうやり方もあるんですが、何も用意してきていませんので、ぜひ我こそはと第一声を発していただくと、場が盛り上がりますので、よろしく願います。それでは、教育長に代わりたいと思います。ありがとうございます。

## 2. 教育長あいさつ

改めまして、こんばんは。教育委員会の大橋でございます。よろしくお願いいたします。まずもって、小学校、中学校の活動に際しまして、特にふるさと教育、ふるさとを介して学習、これは公民館も同じでございますが、参加含めましてご支援ご協力いただいております。本当にありがとうございます。

私からは一点、お手元にカラー刷りの資料を一枚用意させていただきました。それをご覧いただきながら、わずかな時間ですがお伝えしたいと思います。広げていただくと全面印刷のものを上にしていただければと思います。まず、左上でございます。青い帯の中にコミュニティスクールという言葉が読み取れます。これは、文科省を含めて邑南町も導入していきたいという思いでございます。ただ、まだまだ議論の余地が非常にあり、熟慮をしていかなければいけないということで、この制度につきましては、来年度、春以降にしっかり一年をかけて地元の皆さんと協議させていただきながら、令和8年度の導入を目指していきたいと思っています。

コミュニティスクールとは、一体何かということですが、左ページの中ほどあたりに四角囲いでコミュニティスクールとは、学校運営協議会を導入した学校と表記しております。この学校運営協議会とは、一体何かというと、右ページのコミュニティスクールの3つの働き、重要なものが四角囲いで3つ並べてあります。特に一番上です。校長が作成する学校運営の基本方針を承認する場が協議会であると、まずご理解いただきたいと思います。現在のところが、学校の校長先生が経営方針を示されます。それを地元の皆さんにご協力いただいて、学校の思い、校長先生の思いを協力していただきながら、形にしていく。いろいろな体験活動もそうだろうと思っています。それを、協議会の中で地元の方が、校長先生の経営方針を承認するというように変わって参ります。今まではお願いごととして受けておりましたことを、しっかりとその場で議論を交わしながら、あるいは地域の思いをぶつけてい

ただきながら、お互いが対等な立場で、子どもを中心に据えて、育んでいこうという話し合いの場がまず設けられます。それが協議会とさせていただければと思います。さらに、そのページの一番下です。邑南町のコミュニティスクールが目指すもとありますが、邑南町としては少し期間が空いて申し訳ありませんでした。以前より、地域学校と我々は呼んでおりましたけれど、そういった取り組み、あるいは300人委員会だったり、1000人委員会ということを数年前にやらせていただいて、地域の共通の思いを学校にぶつけさせていただきました。そういった地域の思いを今度は協議会の場でしっかりと学校にも伝えていくという場面もつくっていききたいと考えています。

それでは、裏面をご覧ください。ここには、現在のところ、メリットとしてはこういうものがあるだろうなということをお示しさせていただきました。まず上の四角囲みでございます。これは学校がコミュニティスクールを導入することで、いいことがありますよということです。つまり、学校は以前、ご承知のとおり、学校内完結の教育を実施して参りました。数年前より、学校サイドに立って地域に開かれた教育課程、社会に開かれた教育課程を目指しなさいという文科省の方針も示されております。そういった意味で、学校としては、地域と共にある学校づくりをどう進めていくかということでのメリットを示させていただいております。

その下ですけれど、これは今から地域の皆さんと協議して参りたいと思っておりますけれど、地域の皆さんにとって、このコミュニティスクールがプラスになるような取り組みをしたいと。一般的には、これがメリットとして示されております。学校を各として中心とした地域づくりで、今度は地域を中心に考えたときに、学校との在り方について、今後しっかり検討していききたいと思っております。

最後ですが、邑南町のコミュニティスクールのイメージとしては全国的に見れば、小学校単位でコミュニティスクールを立ち上げる、中学校単位で立ち上げるのが主流のようです。邑南町の場合、義務教育の9年間を一つの道筋として、小学校中学校がともに連携して、義務教育最後の中学3年生が卒業する際に、地域をあげて、こんな子どもに育てたいという共通のことを小学校一年生から積み上げていきたい。そういう思いで基本的には中学校区で、このコミュニティスクール、協議会を立ち上げていきながら小中連携のもとに子どもを育んでいくシステムをつくり上げていきたいと思っております。

本日は、時間の関係でここで私の話は終えようと思っておりますけど、来年一年かけて、この口羽に合った、あるいは羽須美中学校区に合ったコミュニティスクールの姿、形を共にご意見ご指導いただきながら確立して参りたいと思っております。いろいろな機会を設けさせていただきますので、よろしく願いしたい思います。私の方からは以上でございます。

### 3. 意見交換

大賀総務課長 ありがとうございます。それでは、続きまして意見交換の時間に入ります。全体の終了を午後8時と予定しておりますので、約1時間、これから意見交換をしたいと思っております。皆さんからご意見ご質問をいただきたいと思っております。手を挙げていただきますと、マイクをお持ちしますので、少しお待ちいただきたいと思っております。発言される際には一回に一つずつお願いしたいと思っております。できるだけ多くの方にご発言いただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

どなたからでも構いません、よろしくお願ひいたします。

- 今日は宣伝も兼ねて参りました。平素は、公用車の給油に來させていただきまして、ありがとうございます。また、各戸に灯油も納品させていただいております。ありがとうございます。一つずつというわけにはいかんのですが、今日は2点ほどお願ひしたいと思ひます。

去年の6月19日に本庁から、担当者が來られまして、ガソリンスタンド存続のために改修費支援の補助金ということで、私のところに来られました内容は、ローリーと計量器の補助を町独自でプラス でやっていくと言われたんです。補助というのは大変ありがたいと思ひんですけど、計量器はざっと20年は使えるんです。20年のローリーも現役で動いております。そういう20年後というよりも、ある程度、毎年予算をつけていただいて、補助していただけたらいいなと思ひます。

実際に例を言いますと、去年の11月に地下タンクの圧力検査を3年に一回やらないといけなひんです。ご存じのように全国のガソリンスタンドは減っていています。何がいけんのかというと、地下タンクの年数がまずダメだと、その後、後継者です。それで、私共は見積を取ったら、1千万円でした。国の補助をいただいて、持ち出しが300数万円です。それを10年前にやりました。それで、3年に一度の圧力検査がありまして、去年11月にやったのが、17万円8千円です。それで、補助をいただいて、補助が5万円くらいで、持ち出しが12万円です。それを3年に一度やらないといけんのです。それに兼ねて、今度は計量器の検定があつて、それが5年に一度です。それもちょうど地下タンクの検査と一緒に、これが8万5千円です。これは補助はなかつたです。それに向けて、ローリーを3台持っていますから、毎年車検がトラック2台、軽が2年に一回の車検が1台で、11月は赤字です。ですから、補助もいいんですけど、毎年これくらいの金額がかかっているというのは、どこのスタンドでもあるんです。だから、そのせめて何割とか。さっき町長さんが言われた財政が厳しいですが、私たちもまだ厳しいです。だから、そういう意味も込めて、20年に一度と言ったら、なかなか使うところもないですから、毎年の固定費、車検もトラックだったら、10万円もかかりますし、そういう固定費と。

あとは消火器の点検も10年に一度は更新です。私共も5台あつて、8千円にしてもそれくらいはかかりますし、屋外タンクを持っていますから、大きい消火器が2ついるんです。それは一つが10万円で、10年に一度交換せんといけん。それも持ち出しです。維持をしていこうと思ひのに、それだけの経費がかかるんです。だから、ローリーの補助も大変ありがたいんですけど、今のような感じのことが実際にかかっていますので、町としても存続のために、電気自動車やハイブリットもありますし、なかなか人も減っていますから、存続するにはどうしたらいいのかなと思ひます。

これは、ぜひともお願ひしたいんですけど、去年の12月いっぱい阿須那のJAのスタンド関係者がやめられるということで、何とかせんといけんかなということで、はっきり言って、赤字で引き継いでおります。黒字だったらやっておられるんですけど、赤字なんです。何で赤字かといったら、給油に來られないから。1回目の給油がなかつたら、2回目も來ないです。私も羽須美の車を見たら、この人はこういう車に乗っているなど全部わかります。ちょっとこれを聞きたいんですけど、町の職員さんは給料とは別に通勤手当が出ますよね。そのお金はどこか

ら出ていますか？国とか町とか、県とか。通勤手当があります。

大屋町長 町からですけど、その元がどこかといわれると、税金は間違いありません。

- それでね、普通の会社は通勤手当はないですよ、普通の一般企業は。ですから、給料とは別にということは、せめて通勤費のいくらかは、この人はだいたい三次に行かれますけど、3円、5円高くてもいいじゃないですか。せめて職員の皆さんは、通勤手当の金額は地元で注いでもらうように極力してもらう方が。1回目の給油があって、2回目の給油があるから、何とか成り立つんだと思うんです。だからそういうところをちゃんと。強制ではないですけど、そういう意識をもってもらってやってもらったらいいと思います。

その例が、公用車の方が軽トラで給油にこられました。それで後ろに新しいチップソーを積んでいる。それで、私がこれをどこで買われましたか？と聞くと、本庁からもらいましたと。それで、また一か月したら、新しい草刈り機が積んであるんです。これはどこからもらいました？本庁です。じゃなくて、私共もチップソーも売っていますし、草刈り機も置いてあります。というように、金額ばかり言ったら、それはそうですけど、私とそのチップソーのときに対応しなかったんですが、金額が合わなかったんです。3千円までだと言われたから、ちょうどそのときに置いてあるのが3千600円です。私だったら、600円が合わなかったら、600円を下げた3千円でいいです、買ってくださいと言うと思うんですけど、対応もちょっとあれで。本庁からもらいましたというようなことから、やっぱり地元は地元で買っていただく。見積も本庁の希望金額はこれだと、羽須美地域、瑞穂地域で、こういう金額を予定しているんですけど、ならないですか？というようなことで、少しでもお互いが歩み寄って地元で買ってもらうようにしていただいたら、若干でもいいんじゃないかと思うんです。予算がないから、安いに越したことはないんですが、羽須美の関係の支所長がこれぐらいの予算の前後は任せるよと、その代わり差があったら一言相談してくれというようなことも、地元は地元でというようにしてもらったら、少しでも潤いまではいいんですけど、利用があるんだと思うんです。

今の2点をぜひとも、さっきのJAのことではないですけど、赤字ですから。何が赤字かといいますと、金額は言わないですけど、資料をいただいているんです。まず、固定資産税を払ってくれと、それはわかるんです。減価償却費を払ってくれと。それを言われたんです。それを商工会に聞いたら、ちょっと違うんじゃないかと。でも言われたままということもないですけど、それでOKにならなかったから、一応、地域のことを思って言われましたよ。ようやってくれたねと。今日も月水金の8時から12時まで開けているんですけど、お客さん来られません。バスのお客さん〇〇に来られますから。昔のイメージがあるから、1月8日からやっているんで、なかなか思うようにはならないんですけど、今までの現金価格は11円下げました。1回目の給油のときに聞くんです、現金ですか、チケットですかと。こういうように言うと、これほど違うんだったら今度は現金にするよというように、同じ人が2回目に来られますかね。というようなことで、減価償却費と固定資産税、何とかお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。以上です。

大屋町長 ありがとうございます。ちょっと、ごめんなさい、誤解がないように。町は財政が厳しいです。何とかしたいと思っています。それは、皆さんに対

して押し付けるためじゃないです。皆さんを応援するためのお金を捻出するために、努力しないといけないと思っています。

今、お話があって、議員のときにも質問した気がしますし、議会でもあったと思います。例えば、町がものを入れるときに安ければいいのか、地元から買うのかというのは大きいと思います。決して財政が厳しいから、安ければいいという思いはないです。先ほどいったとおり、地域があってそれぞれの事業者が成り立たなければ始まらないので、まずは地元を使わせていただくのが第一であって、そこで安い高いとは私自身は思わないですし、そこは徹底しなきゃいけない。おっしゃるとおり、確かに通勤手当を出しておいて、どこで使うかは、それぐらいはと思いますね。私自身も農業してきゅうりをつくってやっている、いろいろ頼まれたりする中で、どこに生産者があって、誰がどこに出していて、お店から無茶苦茶相場が高くなると、うちに来るんだけど、本当は誰々が出しておいて、相場が高いから、高い方に出して、ないわと言ってうちに来たとかいろいろわかるけど、地域でお店をしておいて地域におられるとよくわかるんだと思います。

そういう中で、思いを持ちながらやはり地域のためにしていただいているので、当然町としてまずは地元を使わせてくださいというのは当然だと思っていますし、職員の方も極力はと思います。気持ち的には買い物の楽しみとして安ければ安い嬉しさがありますけど、そこまでガソリンがいくら安くて、一回入れて数百円の中で、そこまでは地元でとお話をしてというのも大事なことだと思います。強制はできないと言われたとおりですが、そういう中で自分たちが努力できる範疇の中でしっかりさせていただければと思います。

スタンドの話をしていただいて、何も約束はできませんが、存続していただくために、大きな投資に対して補助しますが始まりだったと思いますが、年数がくるまでとか、毎年きちんと成り立たないと次がないというのは事実なので、毎年かかる経費をどこまでみるかというのは、やり方もあると思うので、その事情をまず知っているか、知っていないかという話から始まります。本当に何をすればいいのかいうときに聞こえた声が地下タンクが大変なのでそこに補助しようということで始まっているので。ただそこに自分で投資をされた人もあるから、それはいいのかというのは別の話なんだと思います。

事情はよく理解しましたし、地域のためにという思いがあって、地元の業者さんはしていただいているところもありますので、役場の中で情報を共有して、産業支援とか応援として何がよくて、この町で何が必要なのか。それぞれの地域でも違うかもしれないので、そこを考えながら。今日こうやってお話を聞いたので、お話いただいたことはきちんと記録に残して、共有しますので。差し障りのあるところまではしませんけど、しっかり参考にさせていただきますので、お話いただきましてありがとうございました。

小さい声で余計なことを言います。今、脱炭素のことを ○さんの顔を見ながら、あーっと思いつつ思っていたのは、町は今、脱炭素でということいろいろな進めています。この間、予算のときに話をして、脱炭素の先行地域でこれからどうするの？といったときに、計画上はいろいろあるけど、役場の担当は横展開と言われたので、農機具の電化とかそういうのも思ったけど、よく話を聞くと、今は矢上や中野、田所でしか屋根に太陽光をつけられないのを、ほかの地域でも広げていきたいという話でした。そういうことなら共通認識でそこを進める。それが来年か再来年になるかは別にして、電気自動車とか町が積極的に入れ

るかどうかは別の話かなと思っています。この度も電気自動車の要望があったんですが、すごくお金がかかるので。地域のことを思ったり、修理だとか購入だとか、ガソリンを思えば、普通の軽自動車でもいいのかなという思いもあります。それは地域貢献につながる、産業振興につながるということもあるので、一つのものごとについて、直接応援じゃなくても、何かすれば間接的な応援になれば、そういうこともしていければと思っています。結論というわけじゃないですが、いろいろなご意見を聞きながら地域のためになるお金の使い方をしたいと思いますので、よろしくをお願いします。

大賀総務課長 ありがとうございます。他の方はいかがでしょうか。

- 失礼します。口羽地区坪釜集落の ○といたします。よろしくをお願いします。今後の方針の項目で気づいたのは、昨年度来からやっている自治体再編とか、新しいコミュニティの在り方の方向性とかについて、継続されていくんだと思うんですけども、今、私たちが課題に思っているのは新しく運営組織をつくっても、そこを切り盛りする専門のマネージャー的な人材、要するに事務局長的な人、ある程度が専従でやっていかないと、いろいろな地域課題は解決できないと思うんです。それを、確保するための人件費の捻出がすごく難しいと。

それで昨年、情報交換の中で総務省の集落支援員制度を導入しながら対応していったらどうかという話もちょっと聞いたんです。その方向でぜひ考えていただいて、専門の地域運営組織をマネジメントする人材を各公民館区に一人ずつ配置できるようになれば、住民活動も盛んになっていくと考えています。それに対して、今ある自治会の再編問題もあって、ある程度自治会を解消して、小さい自治会を解消して一つの自治会にまとめるということをやったら、そういう支援員を置いてもいいというような条件めいたものがあったような気がしたので、そういうような条件もなしに、自治運営組織が発足したところからどんどん、そういう人材を当てがえるような支援策を、町として今後引き続きやっていただきたいなという思いがありますので、ぜひ引き続き、地域運営組織の応援をお願いしたいと思います。以上です。

大屋町長 文章の中には、それぞれの自治会やコミュニティの今の活動を応援していく思いです。それぞれの地域や成り立ちとか考え方が違うので、できればそれぞれに合わせながらということで、強制的に自治会をやめてくださいという意味ではなくて、一緒になったらいいなと思うならという道筋だと思っています。ちょっと細かいことについては、副町長に代わって説明させてください。

白須副町長 副町長の白須です。先ほどの質問についてなんですが、具体的には今、当初予算の中でいろいろ協議をしているところですが、方向性としては、○さんがおっしゃったように専門のマネージャー、集落支援員のような方が必要だろうということで、その方を雇えるくらいの補助を当初予算の中には盛り込んでいきたいと思っています。

ただ、一つ一つの自治会にというわけには今のところ、考えていませんで、ある程度、自治会を集約するとかという要件はどうしても付けざるを得ない状況だと考えております。これがまたはっきりしましたら、地域の皆さんにお知らせしようと思います。

大賀総務課長 ありがとうございます。

- この地元根布集落の ○と申します。大屋町長には、若い人が期待しているように思います。私からお願いしたいのは、女性の方がUターン、Iターンできる

ような仕組みを考えていただきたいと思います。特に口羽地区を見ますと、珍しく男女の差がほとんどないんです。高齢者で一人暮らしが意外と多いし、50歳以下で独身の男性が結構多いんです。高齢者の女性の一人暮らしが多い割に、男女差がないんです。ぜひ、邑南町全体としても若い女性が輝く町というようなことで、外部に出すパンフレットはできるだけ女性の方が活躍している写真を使ってください。よぼよぼのおばあさんが車に乗って運ばれているようなものは外部に出しても、あれを見て、Uターンイターンする人はいません。私もUターン組ですが、当時は三江線が走っていましたが、地元タクシー会社があったんです。免許がなくても、私はUターンしたんです。ただ途中から、これは不便だなと、60歳で免許を取ったんです。空き家がいっぱいあるんです。以外と外部に対しては、花桃があったり、トロッコ列車が走ったりしていて、わりと有名なんですが、じゃあそれを見てイターンするかUターンする人はいないんです。出ていく人もいますよ。うちの集落なんか、こんなところは嫌だと年寄りが二組も出ていきましたよ。普通、帰ってくるのが当たり前なのに、出ていくんですよ。だから、そういうことがないように。私たちと同じような仲間がUターンしましたけど、皆一生懸命生まれ育ったところを良くしようと頑張ってくれるんです。お金なしでも。だから、できるだけ女性が、Uターンイターンできるように。募集するとき、女性ってできないんですよ。女性を募集というのはできないから、大変だと思うんですが、採用するときにも多少くらい成績が悪くて女性を採用するとかね。そうして、できるだけ女性が働けるように。邑南町は女性が輝いている町だと。外部的には議員の方が3名も女性がいるのは、めずらしいですよ、こんな田舎で。もう一人ひよっとしたら増えるかもしれませんよね。4月になって増えそうな雰囲気ですかね。そうしたらすごいですよ。3割は女性じゃないですか。そうしたら、そういう女性が輝く町というのをぜひ目指していただきたい。私は老人会をやっていますけど、年よりのことはいいですよ、どうせ先が短いんだから。ただ生きているうちは、元気に暮らせるような施策をやってください。よろしくお願いします。

大屋町長 ありがとうございます。ありがたいことに座談会に歩くと、そういうご意見をいただきます。わしらのことはとっていただくんですけど、あまり話をしていなかったですが、福祉施設の在り方とか、健康寿命が長くなっているの、年を重ねても楽しく暮らしていけるという意味で、100歳大学とか書きました。学ぶ場所とかサポートというのは、しっかりしていきたいと思います。若い人が、気持ちの中でですよ。あまり表には出せないですが、まずはUターンイターンで若い人に選んでもらえる町。特に女性に選ばれるかどうかは、ポイントが高いと思います。女性に対してアピールしていくという意味ではなくて、やはり結婚してもそうですが、比較的縁のないところに行くことが多い女性にとって、どこに住むか選択できるのであれば、邑南町が選択肢に入れるようにとは思っています。

そういう中で、若い人のということで、今、総合振興計画を作成する準備をしていて、来年から本格的にということで、公募委員さんをお願いしていて、あまり言っていないかどうかですが、この中でも2人、応募していただいています。そういう応募の中でも若い人の意見をもっと聞いたものをつくりなさいと言われていきますし、公募の中に女性もおられますし、本当にありがたいことだと思っています。町としても、あまり話をしなかったんですが、定期的にこういう会を開催

したいですと書いてあるんですが、その意味は、私自身が皆さんの声を聞かせてくださいというのもあるんです。いろいろな会を開く場面があれば、少しでもいろいろな方に出てきていただきたい。その中で、普段見かけない人がおられると、「この人、今日、来ているじゃない。」と。僕らがこちらから見て、この人誰だろう？と思ったときに、次にいろいろなことをするときにお声がけしやすかったり、皆さんか紹介もしていただきやすい、人材発掘という思いもあります。

議会のときも町民議会をしたのもそういう思いがあつてです。総合振興計画、いろいろなことをつくる中で、話は若干違うのかもしれないですけど、若い人の声を聴く場面をつくりたいと思っています。それが、できれば毎年して、何らかの方法をお願いをして、思いを聞かせていただいたら、それが反映されて町政がよくなるとか、自分たちのためになつたんだというのを、きちんと示すことによって、この町に来て声を出すと変わるんだとか。一人一人のことをきちんとしてもらえてるんだということにつながればいいと思っています。この町から出て行かれる方もある中で、その理由は多々あって、不便だというのは仕方ないです。それぞれの思いなので。ただこの町に住んでいても気持ちがよくなかった、嫌だったというのは、嫌なので、そこはサポートできるところはしっかりして、気持ちよくというのは選挙とのときも今も所信表明でも使いましたが、住み心地がよいというのは、つながりがあって、自尊心が持てるというのは、そこだと思えます。この町でいいなと思ってもらえるところは応援できるので、しっかりやらせてもらえればと思います。ありがとうございます。

大賀総務課長 ありがとうございます。

- ○といいます。今、○さんが、年よりはいいと言われましたが、やっぱり今、一人暮らしをしているので、皆さん、誘って体操とかいろいろやってもらうと、皆さん喜ばれて元気になってくださるんです。それに女性というのは、人を誘うのが上手ですからね。それによって、うちの娘はという話になったら、それが帰ってきてまだ一人でおるけど、どがあな？というところまで話がいきますよね。まだそこが結婚したというところまではいかなんですが、出てきたらいろいろな話が聞けます。そういう面で、年よりのおばあさんもまだ活躍されておりますので、まだ。去年の秋に前の町長さんが辞められるときに、一人暮らしの一番出てほしい人に年金が少ないというので、陳情に行きました。それで、つけてやっただと言われましたが、金額的は聞いていない。たくさんつけてください。また女性で古い人でも頑張ります。すみません。

大屋町長 ありがとうございます。12月議会でも、野田議員が同じような話をしていただきました。極力、いろいろな会をつくりたいですし、出かける場とか、つながる場をつくりたいと思いますし、そういう中で、皆さんが話をして盛り上がっていい話になれば、また伝えていただければ応援するということができればいいと思います。お金で今は何も約束はできませんが、何とか捻出して頑張ればいいなと思っております。気持ちは重々わかりますので。ありがとうございます。

大賀総務課長 ありがとうございます。他の方はいかがでしょうか。

- コイサイドの ○と言います。大屋町長の最初の所信表明を見させてもらって、一番最初に情報公開と広報公聴活動の充実というのを挙げられていて、とてもいいなと思いました。合併して20年が経ちますが、最初の頃はそんなに思わなかったんですけど、最近特に思うのが、町の施策があまり伝わらずに、進められ

ているなというのをすごく感じます。たぶん施策を進めているときに、最初に何でこれをやるのかとか、認識の共通とか、それをやらないといけないという気運の情勢とかが、まずあって、それから全体方針の決定とかをされると思うんですけど、そういうのが見えずに、いきなりハード面だと、ものができ出してから、あれは何ができるんだ？とか。ソフトだったら、それが始まってから、あんなふうなことが始まるとるんか？というのを、すごく感じるんです。

今、身近なところでいうと、ここの隣にバスターミナルができるらしいんですが、正式にどういうものができるのかは、住民に説明はないと思います。そのバスターミナルがどういう背景があって、何のためにできるのか。それができたら、どうなるんかというようなことが全く分からないんですよ。私は、ここに鯉の養殖の池がありまして、あそこは潰れるらしいんですけど、養殖はさせてもらっているんですけど。ただ、らしいというだけでそこを潰して、じゃあ、その池をどうするんかというのは、正式には何も聞いていないんです。

それで、コイサイドで宿泊施設もやっているし、今、飲食店みたいなものもやっていますけど、そこにバスターミナルができるということは、デマンドとの接続もあるのかもしれませんが、当然路線バスも停まって、観光の人も少ないかもしれないんですが、来られると思うんです。それを増やしたいと思って、いろいろやろうとしているんですけど。そういったときに、そのバスターミナルがどういうものができるかもわからないので、果たして観光客も来て、観光案内所みたいなところもつくりたくないといけないんじゃないかとか。来たときに時間があったら。どこか休むところとかいるんじゃないかとか、いろいろ考えるんですけど。僕ら民間は、町がやったことに対してそれからいろいろ考えるんですけど、できてしまってから考えるとかなり後手にいってしまうんです。もっと計画の段階でわかっていたら、もうちょっとこちらもいろいろなことを考えて対応できるんです。そういったところが、すごく最近、施策が見えない。

特に、地域づくりもいろいろなスタッフがおられると思いますが、特に地域づくりとかは、3カ年とか、5カ年とか、長い間でやるんですけど、そのときもアンケートとかワークショップをやっているんですけど、その後どうなりよるんかが、あまり見えない。地域づくりも目指すところがどこかというのがはっきりして、それに対して今は現状がどこかというのを常に情報発信をして、中村議員さんも言われましたが、発信だけじゃなくて、共有するところまでいかないとなかなか住民も参加するということころまでいかないんじゃないかと。逆に、そういう情報が全く出ないで、どんどん進んでいると、無関心になるんです。今、それがすごく気になっていて、一つ無関心になると、いろいろなところで無関心になって動かなくなるんです、人って。そこらへんをもうちょっといろいろな情報を出してもらって共有してもらって、誰か一人が動き出したらそれにつられて、いろんな人が動くんだと思うんです。そこら辺をぜひ、よろしく願います。

大屋町長 ありがとうございます。今日、来させていただいて、どこの会場でもいいんですが、町長の立場でものをしゃべると、してもらえるかもしれないと思われちゃうとしゃべれないので。今から予算だし、いろいろなことが大変で、全てができるわけじゃないんですけど、ここで何かしゃべっていると、副町長とか教育長とか職員の方もおられて、問題を共有してもらえると、誰かがしてもらえるかなと思ってしゃべることもあります。情報を出すときに、予算が決まっていないういに出せないという建前があったり、いろいろあって、私も議員でおったとき

に思うのが、物事が突然に起こる。それが流れが読めないから。この雰囲気で、町がこういうことをしゃべって、こうすれば、次こんなことをすれば、出てきたときに、ああなるほどと思えたり、ちょっと説明を足してもらえれば理解できるんだけど、流れがわからないと全くわからない。今日、こうやって出させていただいているのも、いろいろな話をしながら説明すると、全てを話しているわけじゃないし、ここで話していることと違うことをしても、その流れの中にいれば、皆さん、何となく理解してもらえるとというのもあるんだと思います。だから、決まったことを話すだけでもダメだし、今からの思いで、必ずそうじゃないかもしれない。前は、そういうことを言うと、あのときにああ言ったのに、何でせんのだと言われても、いろいろな説明の中で、難しかったですと理解してもらえればいいんだと思います。町長の立場になって、説明をしました、決裁もありますと言われるけど、理解しているかは別なんだと思います。

全く雑談です。10月くらいにちょっと縁があって、ここの会場に来たときに、石見の議員さんと一緒に来たら、そこに渡り廊下ができていました。それは議会でも説明があって、予算があると知っていたんですが、何でこんなものが急にできているんだという議員さんもおられたんです。わしは聞いてないし、どこから金が出たんだと。それは説明しているけど、やっぱり理解や認識がなかったということなんだと思います。たくさん説明を受ける中で、きちんと意味が。説明したから、皆さん理解したわけじゃないと思いますし、わかって帰ってもらったわけじゃないと思います。そこで、ちゃんとこれだけやるんだよ、絶対だよという説明をして本当に認識したかどうかというのができていないから、説明しましたという一方通行なんだと思います。

個別のことに関しては、なかなか話がしづらいですが、情報発信をしてやりとりをという中で、議員のときもしつこいくらい、たぶん役場の人は嫌だろうなと思うくらいに聞きました。それは、説明を受けたことが、自分が説明を受けて資料を見たことと、自分が思ったことが一致しているかどうかの確認作業だと思いました。職員の方とも、今もしつこくやりとりがありますけど、認識が一致しているかどうかというのは大事だと思いますので、ちょっとご迷惑をかけた、いろいろありますが、今後はまず役場の方も説明できることと、できないことはあるんだけど、お互いに地元のことなので、雰囲気伝えるという手もあると思いますので、それは職員も現場に出たり親しくしたりできないかと。情報漏洩とは違う意味で、上手にしてもらえればいいと思っていますので、それぞれの地域の中で。最初に○さんが言われたのもそうです。地域の中で上手にやってもらえれば、細かいことはという思いもありますので、お互いに上手にできればと思います。あのときに、町長はああ言ったのに、何でせんのだとか、あんまりないようにしてもらえれば、というところで。議員さんが前におられて予算とか今からのことをぺらぺらしゃべって、わしらは聞いてないのって言われるとしゃべれないれないけど、この場の雰囲気とか、思いでしゃべっただけだと言えればいいと思うので、お互いにそこは上手にしながら必要な情報とか、道筋だけはお知らせできればと思います。ありがとうございます。

大賀総務課長 ありがとうございます。他の方は、いかがでしょうか。はい、マイクをお持ちします。

- 青石集落の ○と申します。今、NP 法人のはすみ振興会を手伝っております。ちょっとアピールになるんですけど、はすみ振興会、先ほどの ○さんの方

から、地域運営組織と地域マネージャーというお話がありましたけど、振興会の方も ○さんが代表になって、立っていただいておりますが。ボードメンバーとして、50代が1人、40代が1人、30代が2人、20代が1人で、5名のボードメンバーが定期的に集まってやっております。私は60代ですけど。それで、もちろん、その方たちは自分の仕事をお持ちになって、その中で時間を割いて協力してデマンドか、小さな拠点づくりモデル事業とか、その中で地域運営組織をどう考えるのかとかいうのに取り組んでもらっています。

先ほど、○さんからも話がありましたように、比較的若い人がおる中で、それを支えていくためにも、先ほどの予算の話は少し考えていただきたいと思います。今、町の方からも去年、提言があったように、地域運営組織というのは公民館単位である程度考えましょうというのが出ていると思うんですけど、教育委員会から出たこのコミュニティスクールの方は、中学校区単位ということになりましたね。羽須美地域は、中学校単位だと一つでよろしいんでかね。ですよね。公民館単位だと二つという組織になっていくということで、これはやはり、役職だけが増えていくみたいな、住民代表のね。ここは、羽須美は石見や瑞穂とは人口規模が違いますので、役が増えるとまた大変で、地域運営組織はそれを何とかしようと逆に考えているわけですから、その辺のことも含めてこの二つの組織は、今後うまく擦り合わせて運営できれば、本当に上手く住民の参加が見れるんじゃないかと思います。よろしくお願いします。

大屋町長 私の方から冒頭で、人口が減ってくる。いろいろな行政コストがかかる。家を訪ねるのも大変だということで話をしたときに、今のNP であるとか、地域の皆さんが今までされている活動を支えることによって、職員の負担が減って、超過勤務だとか、いろいろなことが減れば、町としてはいいので。財政の問題もいろいろあるけれど、お金の使い方として、今の私のスタンスは地域に、地元業者さんにと言ったのと一緒に、地域を応援すれば、それが回り回って町の職員の負担が減るのであれば、その仕組みもあるのかなと思いました。そういう考えの元にできる範囲のことをさせていただければと思います。お金を出しますとか約束はできませんが。くどくて、すみません。思いはよくわかりました。考え方で、町も応援の仕方はあるなと思いました。ありがとうございます。コミュニティスクールについては、代わらせてください。

大橋教育長 ありがとうございます。中学校区とご説明申し上げました。先ほどもお伝えしたとおり、9年間でどういう子ども育てていくのかということを経済委員会としては大事にしていきたいと思っております。中学校区での議論を各小学校にも下ろして参ります。そういたしますと、小学校から中学校への接続もきつとうまくいくであろうという。これは、今からでしょうけども、そういった中で、今おっしゃられたご意見等を来年度一年かけて、我々も研究、検討して参りたいと思いますので、またご指導いただければと思います。ありがとうございます。

大賀総務課長 ありがとうございます。他の方はいかがでしょうか。

- 下口羽の〇〇です。直接、担当課へ行ってもよかったんですが、ちょっと頼まれたことなので。私は、口羽に住んでおりますが、自治会は上田自治会の世話をさせてもらっております。先日、自治会の総会を行いまして、今度、座談会があるんだけど、来られない方は、何かご意見があれば出して下さいと言いましたところ、出なかったんです。いきなり言ったもので、なかなか出なかったんです

が、一つ言われたのが、町道、県道の白線が薄かったり消えたりしているところ  
がかなりあるので、そこを何とかやってもらえんだらうかと。それを言うておい  
てくれと言われました。具体的にどこですかと聞いたんですが、それは言われん  
かったんです。特に県道だと言われまして、県道口羽阿須那間でも路側帯を歩い  
ておられる方もいるので、そういう方は、歩く方も危ないし、車で通行する方も  
危ないと思うので、またそれを県に伝えていただければと思います。よろしくお  
願いします。

大屋町長 ありがとうございます。いろいろなところで声を聞きますし、だれ  
もが安心して運転できる意味では、大事なことだと思います。特に私たちは、不  
慣れなところに行く、線がはっきりしているかどうかは大きいので。たくさん  
声を聞きます。何とかできればなと思います。ありがとうございます。

それで、最初に言い忘れたんですが、表に町長への手紙ということで、QRコ  
ードもつけています。足りない部分があったら、それを読み込むとメールが送れ  
ます。私自身、匿名だろうと返信先がなかりと、それはご意見として区別はし  
ませんので、思いを伝えていただければと思います。それ以外でも、紙にちょこ  
っと書いて、支所長なり役場職員に、町長へ渡してと言えば、きちんと届きます  
し、職員の方に伝えていただいても届きます。どんな形でもきちんと町長まで  
届きますので、活用していただければと思います。ありがとうございます。

バイパスのところに、横断幕で日本一の子育て村ってありますね。一年前に私  
の子どもが3人で出雲から帰って参りました。それも私から頼んだんじゃなくて、  
子どもの方から帰ってみようと思うけど、どんなだらうかと。向こうから言うの  
で、帰ってねと。3人で帰ったのが、3ヶ月前に、一人増えて4人になりました。  
それが、聞いた話しなんです、保育所で預ける時間が家で見える人がおったら、  
今度はお迎えの時間が早くなりますと聞いたんです。それは、2歳半くらいの子  
どもですから、ぎゃーぎゃー言うか、寝とるかのことなので。お母さんが一人で  
子守をするなら、見るんでしょけど。保育所から帰った、それで2人はよう見  
れないということで、息子が今までお店を閉めるまでは一緒におってくれたん  
ですが、1時間ちょっと早く家に帰る。お店を閉めるのも私なんです。全然、楽に  
なっていないんです。だから、一年間に何百人も生まれんじゃないですか。だか  
ら、子どもに手厚く、親にも手厚く。私たちも老いていきますので、楽というこ  
とはないですが、帰ってきて、仕事を辞めて上がるんかというようなものでね、全  
然日本一でもないかなと思うんです。そのことは、本当なんでしょうか。

大屋町長 答えが正しいかどうかは確認をしなきゃいけないですが、一般論で、  
今の町の事情を話させてください。本来ですと、希望通りお預かりしたいです。  
それができないのは、保育所にもスタッフが足りないという事情があります。保  
育所がたくさんあって、十分な保育をする人材を確保するのが、すごく苦しくな  
っています。そうすると、どうしても皆さんの希望にしっかり応えられないと。

建前か本音かは別にさせてください。保育所は措置ということで、福祉施設な  
ので建前上は、家でだれも仕事勤めに行かれておって、保育ができないので、預  
かるという建前があって、どうしてもという時は申し訳ないですが、若干優先順  
位をつけて、本当に大変なお家から預らせていただいて、少しお家の方の協力  
が得られそうなところについては、相談しながら1時間でもということをしてい  
るかもしれません。個別については。そういうことが、邑南町においては極端に  
言うと、0歳児を預けたいですと言って、希望のところへ預けることができない

くらいに、今、保育所は苦しんでいます。職員が確保できないというところで。

そういう意味では、保育所の仕組みや統廃合なり、預かれる仕組みをまず考えないといけない時期、それも早急にという状況になってきています。申し訳ないです。うちも自営業なので、よくわかります。家におるから子どもの面倒が見れるわけじゃないです。同じだと思います。仕事をしているので。でもどうしても協力をというときに頼らざるを得ない事情もあるかもしれませんが、すぐに何とかできますという状況ではないので、町の責任として保育所のことをしっかり考えた上で、皆さんの希望に添えるように。この町は、保育所しかないの、じゃあ、お金を出して幼稚園に預けるからいいよという選択肢はないし、その他のところもない以上は、地域を支えて仕事をしっかりしていただくという意味では、本音と建前があるにしても、制度上、保育所はそこができるようなことをしていないといけないと思っていますし。

児童クラブも町の責任でと言ったのは、それもはっきりないと安心して働いていただけない。若い世代というのは、地域を支えていただいているし、福祉施設を支えていただいているということで、何度もそういう人材確保の疲弊が、若い人にしわ寄せして、町全体のマイナスになっていきますと言っていますので。少し協力していただけないといけないですし、逆に、保育所を何とかしたら、ちょっと遠くまで預けてくださいというふうになるところもあるかもしれませんが、全てが全てできるわけじゃないですが、事情もよくわかるので。

町の事情もあって本当に申し訳ないところですが、町が今までしてこなかったツケだと思っていますので、しっかり対応するために、事情を聞かせていただいた中で早急に考えていかないといけない課題だと思っています。ありがとうございます。

大賀総務課長 ありがとうございます。予定しておりました8時になりました。活発にご意見、ご質問いただきましてありがとうございました。これで、閉会にしたいと思います。閉会にあたりまして、白須副町長からごあいさつ申し上げます。

#### 4. 副町長あいさつ

本日は、長時間にわたりまして、さまざまなご意見、ご質問をいただきました。ありがとうございます。まだまだ質問をしたい方がいらっしやっただかと思いますが、町長も申しました。この座談会にQRコード等も載せております。電話でも結構ですので、わからないことご意見等を頂戴できればと思いますので、よろしくをお願いします。

先ほど、私も言いましたが、現在、来年度の当初予算の編成作業中です。例年ですと、この予算の編成作業の前に、町長から来年度の予算の方針とか重点項目とか、そういったものを示して予算編成作業にあたるわけでございます。今年度の方針につきましては、財政再建そのものが予算編成の方針となっております。そういった中で、これまで実施してきた事業、事務、様々な見直し等にも取りかかっているところでございます。皆さんの生活や事業活動に何らかの影響もあるかもしれませんが、しっかりとそこは今日のやり取りの中にもありましたように情報を共有しながら、皆さんと協働で乗り越えていきたいと考えております。しっかりと、こういう理由でこう変わるということはしっかりと説明させていただ

きたいと思っておりますので、またその際にはしっかりとご意見等もいただきたいと思っております。意見をしっかりといただいて、その意見を次の参考とさせていただきます。

小中学校の在り方とか、地域コミュニティの再編、そういった中長期的に取り組んでいることもございます。そういったことも情報を共有して、皆さんと協働で進めていきたいと考えておりますので、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

最後になりますが、本日はお仕事お疲れのところ、夜分に、そして天候も悪い中お集まりいただきまして、ありがとうございました。お帰りの際には、交通安全に十分に注意していただいて、事故のないように帰っていただければと思います。簡単ではございますが、閉会にあたってのあいさつとさせていただきます。本日は、ありがとうございました。

大賀総務課長 ありがとうございました。以上をもちまして、閉会とさせていただきます。